

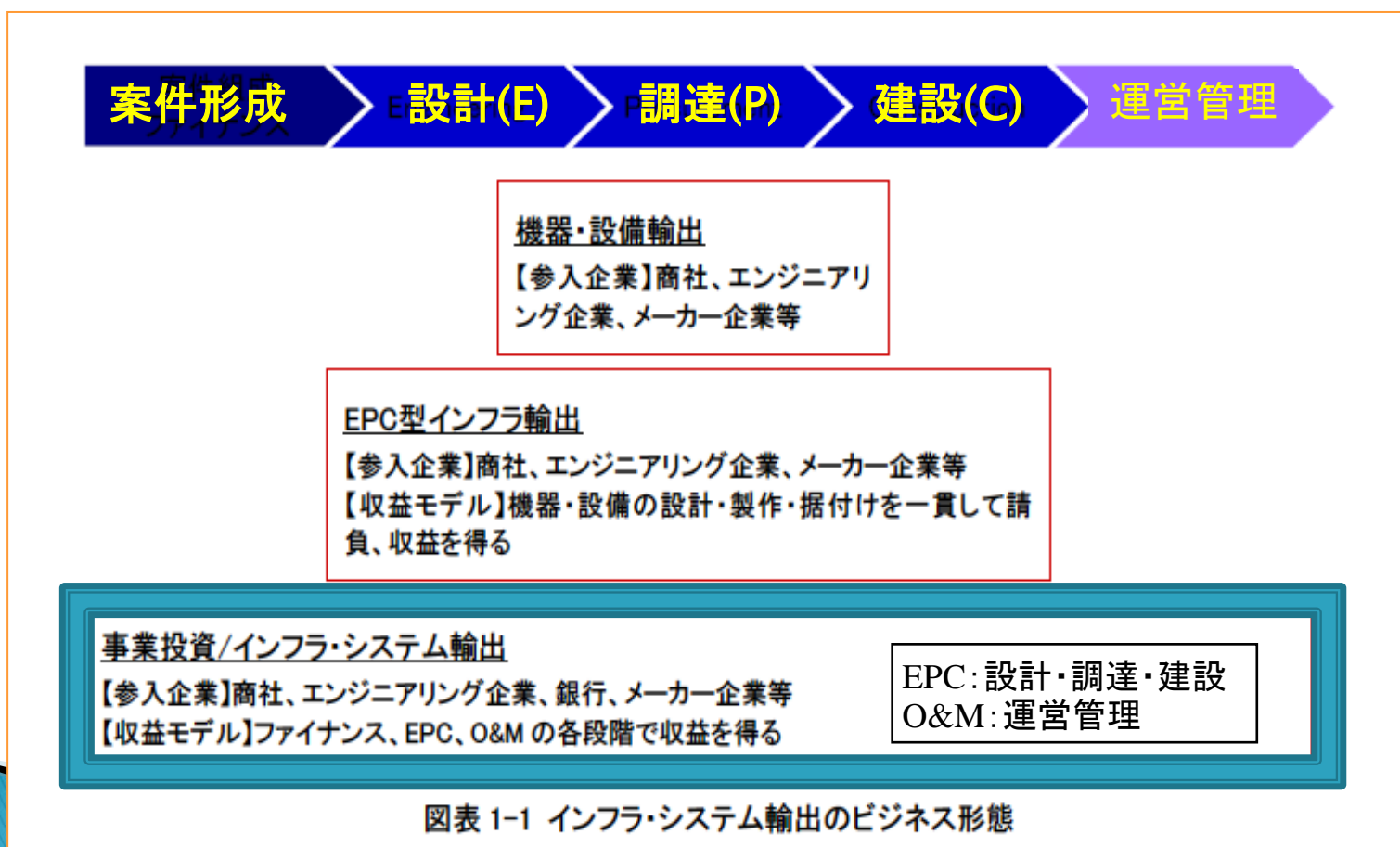
# 海外インフラ投資事業の薦め

平成27年8月26日

JACIC 藤森祥弘

# トレンド

- 近年、海外インフラプロジェクトでは、施設の企画、設計、調達、建設、維持管理などのハード面のみならず、ファイナンスや運営などのソフト面も含めた事業権全体、またはその一部を複数まとめて発注することが主流になりつつある。



# 最近の政府動向

- ▶ 第2章 経済の好循環の拡大と中長期の発展に向けた重点課題
- 1. 我が国の潜在力の強化と未来社会を見据えた改革
  - [2] 海外の成長市場との連携強化
  - ▶ 我が国企業のグローバル市場開拓を促進するため、**官民連携によりODA等も活用したインフラシステムの輸出**、中堅・中小企業、小規模事業者、サービス業の海外展開の支援、日本食・日本産酒類、コンテンツの輸出や文化の創造・発信等クールジャパン戦略、法整備支援等を促進するほか、航空・宇宙・海洋産業の振興を図る。
  - ▶ また、「**質の高いインフラパートナーシップ**」を推進する。

- ▶ 成長を続けるアジアにおけるインフラ建設案件の規模は大きく、事業期間も長期にわたる。このため、**官民が協力して総合的な推進体制を構築し、川上の構想段階から現地の政府、民間企業等と連携して取り組んでいく。**
- ▶ 海外におけるインフラ需要に対し、我が国は、特に「**質の高いインフラ投資**」をもって応える。
- ▶ 個別案件に場当たりの対応するのではなく、長期的かつ継続的に関与し、多様な後続プロジェクトの連続的な創出・推進につなげていくことが重要である。

経済財政運営と改革の基本方針2015 (2015.6.30)

日本再興戦略(2015.6.30)

# 質の高いインフラパートナーシップ

～アジアの未来への投資～

2015.5.21

- ▶ 「質の高いインフラ」とは、一見、値段が高く見えるものの、使いやすく、長持ちし、そして、環境に優しく災害の備えにもなるため、**長期的に見れば安上がり**

キャッシュフローに如何に現わすのか？

「質の高いインフラ投資」  
の提唱

1. 日本の経済協カツールを総動員した支援量の拡大・迅速化
2. 日本とADBのコラボレーション
3. JBICの機能強化等によるリスク・マネーの供給倍増
4. 「質の高いインフラ投資」の国際的スタンダードとしての定着

「質の高いインフラ投資」  
の4本柱

# 質の高いインフラパートナーシップ ～アジアの未来への投資～

- ▶ これまで、途上国政府による支払い保証がなければ成立が困難であったPPPインフラ・プロジェクト等に対しても、リスク・マネーをより積極的に提供

JBIC

- ▶ 途上国政府が、PPP(インフラ・プロジェクト)に対して出資金や保証などを提供する際のバックアップとなる新設円借款の活用を通じ、民間資金のインフラ・プロジェクトへの動員を促進
- ▶ 海外投融資を用いて、ADBと共にPPPインフラ投資を実施する仕組みの創設を検討

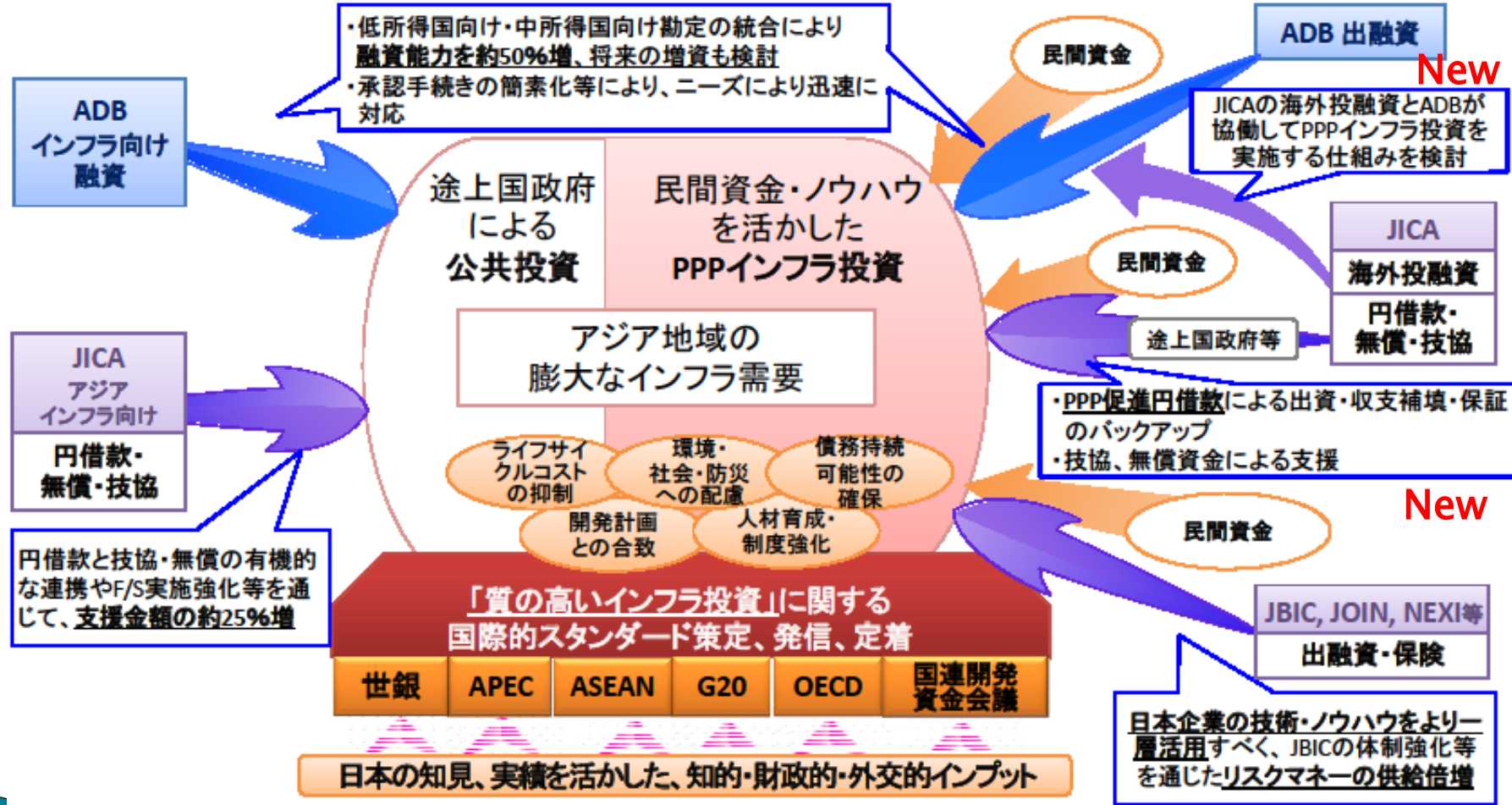
JICA



# 質の高いインフラパートナーシップのイメージ

- アジアのインフラ需要に応えるべく、各国・国際機関と協働。日本のODA等の経済協カツールを総動員するとともに、機能を強化したADBと連携して、今後5年間で約1,100億ドルの「質の高いインフラ投資」を行う。
- その際、民間部門の資金・ノウハウの更なる動員により、「質と量」の双方を追求する。

13兆円



New

# アジアアベバ行動計画(2015.7.16)

## (パラ14.) インフラギャップを埋める新フォーラムの構築

- ▶ 交通、エネルギー、水及び衛生を含む、**持続可能でレジリエントなインフラへの投資は、我々のゴールを達成するための前提**である。
- ▶ 開発途上国における毎年1兆ドルから1.5兆ドルを含む、**地球規模でのインフラギャップを埋める**ために、我々は、ファイナンス及び技術支援の高度化を通じて、開発途上国における**持続可能で、アクセスが容易で、レジリエントで質の高いインフラの整備**を促進する。
- ▶ AIIB、グローバル・インフラストラクチャー・ハブ、新開発銀行、アジア太平洋プロジェクト準備機構(AP3F)、世銀グループのGIF、アフリカ50インフラ・ファンド、米州投資公社の増資を含めた、こうしたギャップを埋めることを目的とした新たなインフラに係るイニシアティブを歓迎する。
- ▶ 持続可能な開発ゴールのキーとなる柱として、多国間開発銀行に主導される、既存の多国間協力メカニズムの上に構築される「**グローバル・インフラストラクチャー・フォーラム**」の設立を提唱する。

持続可能でレジリエントな  
インフラストラクチャー

グローバル・インフラストラクチャー・  
フォーラム

# グローバル インフラストラクチャー

## ファシリティ(GIF)

2014.10.9設立

- 新興国のインフラ投資需要に対応して、財務的及び経済的課題の双方を満足するプロジェクトを組成する。 目標資金量 12兆円

### GIF 設立発起人会参加機関

#### 政府

オーストラリア政府  
カナダ政府  
**日本国政府**  
シンガポール政府

#### 国際金融機関

アジア開発銀行 (ADB)  
欧州復興開発銀行 (EBRD)  
欧州投資銀行 (EIB)  
世界銀行グループ

#### 機関投資家

World Pension Council

#### 銀行等

Aldwych Holdings Limited  
Amundi Asset Management  
AXA SA  
BLACKROCK Financial Management, Inc.  
Caisse de Depot et Placement du Quebec  
Citibank, N.A.  
DBS Bank Ltd.  
Endeavor Energy Holdings LLC  
HSBC Bank Plc.  
Institute of International Finance (IIF)  
イスラム開発銀行 (ISDB)  
**国際協力銀行 (JBIC)**  
Macquarie Group, Ltd  
Nigeria Sovereign Investment Authority (NSIA)  
Standard Bank  
Standard Chartered Bank  
Swiss Re Ltd



# GIF パイロット・フェーズ 2015.3から

- ▶ 当初基本財産として8千万ドルから1億ドルが目標
- ▶ 3年間のパイロット・フェーズの後、レビューを実施

## •統制理事会 (Governance Council)

- 資金パートナー (出資国)
- 技術パートナー (世銀など国際金融機関)

## •諮問委員会 (Advisory Council)

- 資金パートナー (出資国)
- 技術パートナー (世銀など国際金融機関)
- 機関投資家 (年金基金など)
- 民間金融機関 (銀行など)

JICAは枠外？

PPP/PFI事業が主眼

GIF事務局

- ワシントンに本部
- シンガポールに業務拠点

# アジアインフラストラクチャー投資銀行 (AIIB)

- ▶ 創設参加加盟50カ国(タイ、マレーシア、フィリピン、デンマーク、ポーランド、クウェート、南アフリカの7カ国は署名見送り)。
- ▶ 2015年末に業務開始予定。
- ▶ 総裁は中国人の金立群、本部は北京に設置。中国政府の影響力は強大。
- ▶ 金融機関としては、世銀やアジア開発銀行などと同様、主として対政府借款が中心の機関。
- ▶ PPP案件への出資は限定的??

2014.10.24 設立  
2015年開業目標

- ▶ 参加見送り国  
アメリカ、日本、カナダ、メキシコ、アルゼンチン
- ▶ 参加が拒否された国  
北朝鮮、台湾、香港
- ▶ アフリカ、中南米などの多くの諸国は未表明

日本企業は、アンタイド円借款で殆んど受注できていない。AIIBの借款事業で受注は極めて困難。

出資金目標 12兆円  
(日本 3,600億円)

# アジアインフラストラクチャー投資銀行(AIIB)

- ▶ インドなどアジアの新興国は、インフラ整備に係る資金需要が著しく大きいですが、政府債務残高を借入能力の一定割合以下に抑制するために、所謂、PPP方式を積極的に導入。
- ▶ AIIBが借入国の借入能力に拘わらず、無制限に融資を行うことは、実際には不可能。(対外債務超過状況)
- ▶ 仮にそうしたとしても、国際金融市場が離反することが思料され、その新興国へ民間資金が流入しなくなり、経済的に立ち行かなくなる。
- ▶ その結果、公的資金に依存したインフラ整備のみならず、PPP方式での整備も進まなくなる。
- ▶ その後も、債務減額などの措置を取っても、経済的な成長を見込めないため、PPP方式以外でのインフラ整備は実質不可能。
- ▶ 仮にAIIBがPPP方式を積極的に推進する場合でも、そもそも採算性の良い案件はAIIBに持ち込む必要が無いので、AIIBは事業採算性の低い案件を取り扱うことを迫られることが必定。

債務可能額はもう一杯

結局 PPP???

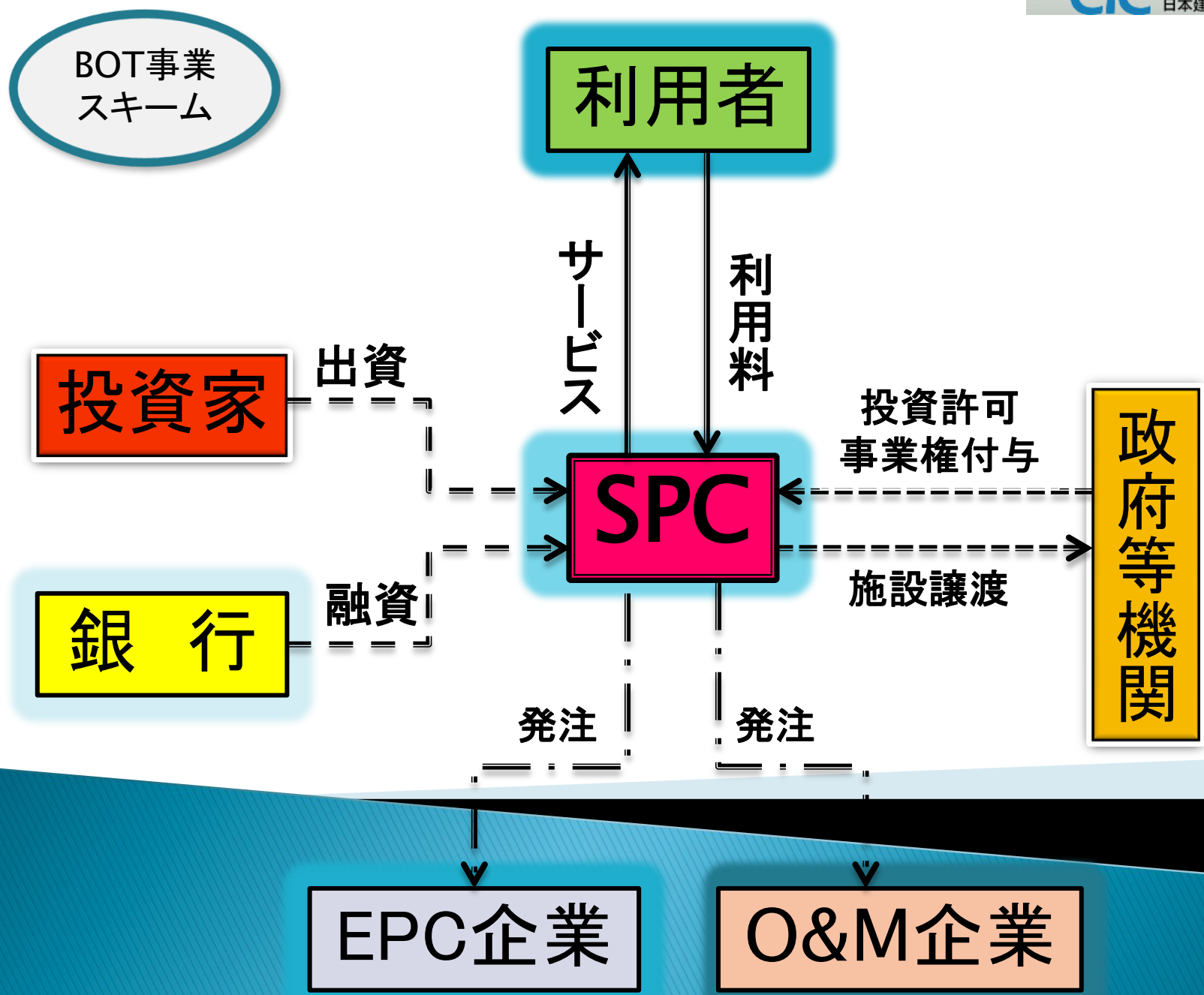
# 海外事業の種類

- ▶ 日本政府開発援助 (ODA)
  - 技術協力
  - 無償資金協力
  - 有償資金協力
    - 本邦技術活用型円借款(STEP)

日本政府の関与あり

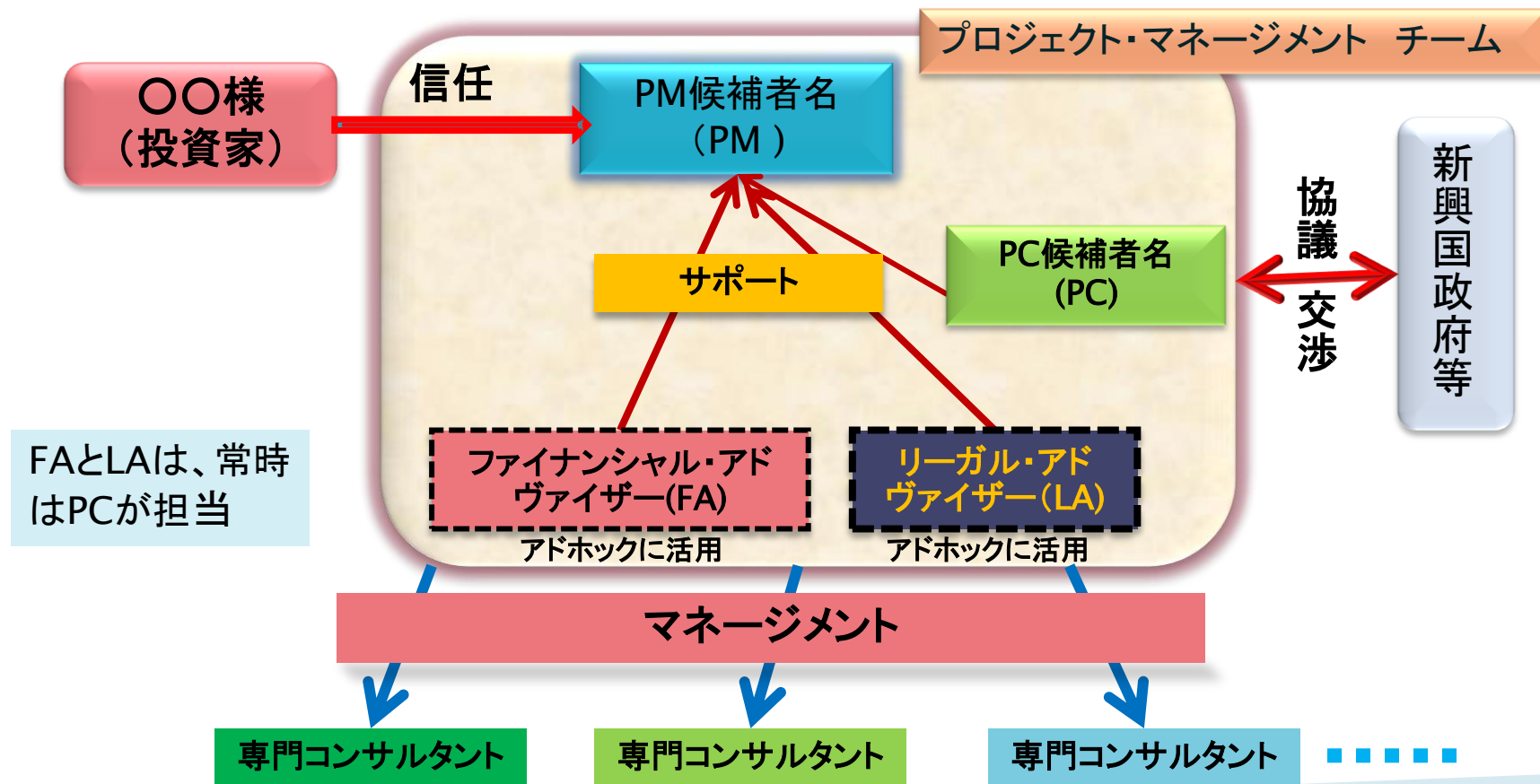
- ▶ 国際金融機関の貸付事業
- ▶ 国際金融機関の出資事業
- ▶ 第3国ODA対象事業
  - ミャンマー 水力発電ダム事業
- ▶ 事業実施政府の独自予算
  - 英国 高速鉄道整備事業
  - アルジェリア 東西高速道路事業
- ▶ 民間投資事業
  - ラオス 水力発電ダム事業
  - ミャンマー ティアラ都市開発事業

日本政府の関与なし





# 小規模投資事業立上げの具体的な提案



- プロジェクト・マネージャー (PM) は、投資家の信任を得て代理人として、
- ・新興国政府等と協議・交渉などをおこなう。
  - ・そのために必要な専門コンサルタントを監理する。

# マネジメント・チームの費用総額 約2億円

## 投資事業の流れ

	3か月	3か月	2か月	3か月	1か月		
	①コン セプト・ 準備	②提案 書作 成・提 出	③交渉	④仮 契約 締結	⑥本契 約締結	⑤SPC設 立	⑦最初の 借入れ金 入金
投資家	支払 ↓	支払 ↓	支払 ↓	支払 ↓	支払 ↓	FAへ支払	掛った費用 全額
PM	月額 500万 円	月額 500万 円	月額 500万 円	月額 500万 円	月額 500万 円	3000万円	N.A.
PC	月額 300万 円	月額 300万 円	月額 300万 円	月額 300万 円	月額 300万 円	1500万円	N.A.
LA	—	月額 200万 円	月額 200万 円	月額 200万 円	月額 200万 円	1000万円	N.A.
FA	—	—	月額 200万 円	月額 200万 円	月額 200万 円	月額 200万円	1000万円

SPC

# 案件組成のポイント例

- ▶ 競合者よりも迅速かつ柔軟に顧客に対応。
- ▶ 投資家又は想定される投資家の収益分野の特定。
- ▶ リスクは競合者にとってもリスク(投資家の収益がリスクは競合者の排除に働く!!!)。
- ▶ SPC設立までのコストは、SPCから回収する。
- ▶ DSCRは1.2を確保。

(註)  $DSCR = \text{元利金返済前キャッシュフロー} \div \text{元利金返済額}$

※  $\text{元利金返済額} = \text{前期末有利子負債} - \text{当期末有利子負債} + \text{支払利息} \cdot \text{割引料} (- \text{期限前弁済額})$   
元利金返済カバー率のこと。

低リスク案件でDSCR1.2以上、ハイリスク案件でDSCR1.5以上、1以下はデフォルトの状態。

# JACIC海外支援室

## (業務内容)

- 1 本邦企業を対象として、海外のインフラ投資事業に関する実務的な情報提供及び講習会の開催  
(これまでに9回の建設コンサルタントなどと企業別勉強会を開催、JACIC ニュースに関連記事を連載)
- 2 本邦企業等からの依頼に応じて、
  - ①海外におけるインフラ投資事業の企画から事業主体の特別目的会社(SPC)の設立及びその初期稼働までのガイダンス及び調整業務の代行
  - ②投資事業の立ち上げから事業実施に必要な情報管理システムの構築支援

2015年7月に2 ①業務で1件の契約締結  
その他2件について協議中

# JACIC海外支援室サービスの流れ

## 0.勉強会・出前講座

(個別案件を発掘)

1. 初回打ち合わせ
2. 機密保持契約(NDA)の締結
3. 受託業務契約の締結
4. 業務開始



ご静聴有り難うございました。

